

秋田国際俳句ジャーナル「カモシカ4」に関する論評

デビッド・マクマレイ

初めに

第9回秋田国際俳句コンテストが開催され、その中から鹿児島国際大学の学生8名が日本語部門・英語部門で入選しました。本コンテストは、5大陸、約50ヶ国の小・中学生、高校生や大学生、そして一般の方々からインターネット上で「時間、時間性」をテーマに俳句を募集しました。寄せられた俳句の優秀作品をインターネット上や書籍で共有し、2020年12月に結果発表が行われました。本コンテストの優秀者の俳句作品を紹介するため、2021年6月4日に俳句ジャーナル「Serow (カモシカ) Volume 4」が主催の秋田国際俳句ネットワークより出版され、私も会員として英語俳句部門の優秀作品の選出、ジャーナルの出版に携わりました。このジャーナルは英語版と日本語版の95ページに及ぶ大冊となっています。

1. 入賞した優秀作品

以下に入賞した優秀作品を紹介します。

秋田国際俳句コンテスト日本語部門において、国際文化学科2年 川原梨沙さんが入選しました。

秋の道 落ち葉で着飾る ランウェイよ

俳句について授業でインタビューをしたところ、「秋の道は、落ち葉によって黄色や赤といった色鮮やかなカーペットが敷かれたようで、まるでランウェイのような華やかさが感じられます。毎年紅葉の季節になるとこの景色が思い浮かびます。」と川原さんは語りました。

2021年度の同コンテスト英語部門には436句が寄せられ、学生の俳句作品は11か国（ガーナ、インド、日本、ネパール、ニュージーランド、ナイジェリア、フィリピン、ポーランド、ルーマニア、ロシア、アメリカ）から195句の応募がありました。その中から児童学科と国際文化学科の生徒計7名の俳句作品が入選しました。

中でも最も優れた作品に贈られる特選賞1位には児童学科2年 黒木美保さんの俳句が選ばれました。

キーワード：英語俳句、比較文化、5. 7. 5調、省略記号、……



図1. 軽装の「Serow (カモシカ) Volume 4」

Autumn cuckoo
stay warm with me here
as long as you can

秋のほととぎす
ここで私と一緒に暖かくしていてね
できる限り長い間

授業内の大福帳にて黒木さんは「ほととぎすは寒い冬の始まりの到来を告げる鳥です。1909年に発表された、去ってしまった友を懐かしむ内容の歌唱曲「ほととぎす（秋夜懐友）」をイメージして書きました。暖かくも、どこか寂しさのある作品になったと思います」と記しています。

特選賞2位には児童学科2年 堀口峻輔さんの俳句が選ばれました。

Gradually fading
a memory from summer
with cicadas

徐々に消えていく
夏の思い出
蝉とともに

「蝉の鳴き声を録音し、作曲した曲に当てはめると程良く調和したのでこの俳句を作りました」と堀口さんは大福帳に記しています。

また、下記4名は入選作品です。順不同で紹介します。

国際文化学科4年 下野陽生さん

My summer vacation
I cannot go out
without a mask

私の夏休み
外出できない
マスクなしでは

下野さんは「新型コロナウイルスの拡大により、マスク着用のストレスや感染症の拡大で悩みを抱えた人が多くいるのではないかと思い、今の気持ちを俳句にしました」と大福帳に記しています。

国際文化学科2年 原有輝さん

On the winter sky,
spread across the sky
the ocean of constellations

冬天や 広がる星座 海の如（く）

受賞後に俳句について質問したところ、「趣味のツーリングでバイクを止めたときに見えた星空が驚くほど美しくまるで銀河に包まれているようでした。その時の景色を思い浮かべながら俳句を書きました」と原さんは話しました。英語部門の選出を担当した、この俳句は、松尾芭蕉が日本海を見つめながら書いた俳句「荒海や佐渡によこたふ天河」が思い出される素晴らしい作品でした。

国際文化学科2年 福重友理さん

Black cat looks as the clock
strikes 4:00.
I'm afraid of the dark.

黒猫が時計見る 4時を打つ
私は暗闇が怖い

福重さんは英会話の授業にて「とてもいい経験になりました。最後の一文は英会話の教科書から、イギリス出身のシンガーソングライター、デズリーのヒット曲である「Life」という曲から使わせていただきました。また機会があれば、応募したいと思います」と感想を述べました。この俳句は、1つの文章で迷信と恐怖の感情によって構成されていて、とても独創的な作品です。

国際文化学科2年 大谷桜子さん

No matter how sad the day
tears will reflect
tomorrow's brilliance

どんなに悲しい日でも
涙は映す
明日の輝きを

この俳句は涙の表現する「時間制」によって時間と感情のそれぞれが対比して表現されていて、素晴らしい作品です。

児童学科2年 都彩音さん

Autumn with sky clear and blue
Children's voice
rustling the leaves in the trees

空が澄んで青い秋
子供達の声
木の葉にサラサラ音を立たせる

こちらの作品に関してはコメントがありませんでしたが、この作品は日本語訳がとても美しい作品です。英語の語順を工夫するとさらに素晴らしい作品になるのではないのでしょうか。シラブルや比喩、直喩、擬人法、省略や他の文学的手法の観点から分析可能です。独創的な部分は、英語で俳句句読点（省略記号）の変化の分析です。以下の俳句は、私が都彩音さんの作った俳句の同じ単語を使って作ったものです。

The children's voices...
the leaves rustling in the tree
clear blue autumn sky

このように英語で5・7・5の俳句のリズムに置き換えることで魅力的な俳句になります。“The

children's voices...”の文末に使われている、てんてんてんは、「子供の声が聞こえるなあ……」という気持ちを表現しています。

2. 後援

秋田国際俳句コンテストは、主催の秋田国際俳句ネットワーク及び秋田県、秋田県立大学、秋田国立大学高等教育グローバルセンター、朝日新聞「Asahi Haikuist Network」、国際教養大学、俳句ユネスコ登録推進協議会、鹿児島国際大学の後援で開催されました。異文化を持つ人々の間で相互理解を深めながら、世界平和の実現のための一助を目的として開催されています。地球温暖化による気候変化は、四季ごとに変わる俳句にも変化をもたらしています。近年、特にこの気候の変化によって、ユネスコが俳句を世界遺産として保護することを考える要因にもなるでしょう。俳句の選出には、コンテスト主催会長蝦田先生をはじめ6名の先生方が務めました。入賞者には郵送にて「Serow (カモシカ) Volume 4」が贈られる予定です。同ジャーナルは、秋田国際ネットワークの公式ホームページより閲覧が可能です。今回は全世界から607句の応募があり、28名が入選、そのうち8名が鹿児島国際大学の学生でした。コンテストに参加した鹿児島国際大学の学生にとって、世界中の国際俳句や日本語俳句に興味がある人々と繋がる事ができ、とても良い機会だったと思います。

3. 全体的な印象

2012 (平成24) 年5月、秋田国際俳句・川柳・短歌ネットワークは「秋田県・ロシア沿海地方文化交流事業」、「秋田市・ウラジオストク市姉妹都市提携20周年記念行事」及び「石井露月生誕140年記念」として日露俳句コンテストを行いました。2019 (令和元) 年11月、秋田国際俳句ネットワークは第7回日露俳句コンテストを準じて、第8回秋田国際俳句コンテストを行いました。日露俳句コンテストに応募された多くの方々から、引き続き俳句が寄せられ、日本語・英語両部門に57か国から413句の応募がありました。

今後も俳句コンテストの開催が予定されています。インターネット上からいつでも俳句を投稿することができるのでぜひ参加してみてください。そして、受賞された皆さんおめでとうございます。

第10回 秋田国際俳句コンテストの応募期間は2021 (令和3) 年8月1日 (日) ~10月31日 (日) です。受賞者の俳句は、各部門から入選した十句を秋田国際俳句ジャーナル「Serow (カモシカ) Volume 5」に掲載します。受賞者には「Serow (カモシカ) Volume 5」を無料で贈呈します。

最後に、俳句コンテストを通じてより多くの国々に俳句が広がり、俳句を通して異文化交流の輪が一層大きくなることを祈念いたします。そして、寄せられた俳句の優秀作品をインターネットで共有し、異文化を持つ人々の間で相互理解を深めながら、世界平和の実現のための助けとなることでしょう。